

# 「動詞＋“上”」と空間詞との関係について

高橋 弥守彦

## On the Relationship between in “Verb + *shang*” and Spatial Noun

TAKAHASHI Yasuhiko

### 内容提要

本文从短语论的观点来讨论“动词＋上＋空间词”里的“上”和空间词之间的关系。“上”表示位置性移动，所以，我们叫做位置性移动动词。将一种表示处所的词叫做空间词，将空间词和它构成的短语叫做空间词语；把移动动词分为三类（样态性移动动词，位置性移动动词，趋向性移动动词），空间词分为五类（专有名词，处所名词，方位词，指示代词，事物名词），其中处所名词从它们的意义特点来又分为六类（自然地理性名词，人工修建性名词，工作单位性名词，行政区域性名词，全体处所性名词，部分处所性名词）。

在“上”和名词构成的结构里有“动词＋上＋空间词”的短语。通过分析“动词＋上＋空间词”里的位置性移动动词“上”和空间词之间的关系，笔者认为它们并不可以随意搭配，它们的搭配是有语法规则可寻的。我们汉日对比的角度分析“动词＋上＋空间词”里的位置性移动动词“上”与不同空间词语的搭配问题。

### キーワード

位置移動の動詞“上” 空間詞 くみあわせ むすびつき 基本義 派生義

### 1. はじめに

移動動詞は各移動動詞の有する意味から、有様移動の動詞（“走，飞”など）・位置移動の動詞（“上，下”など）・趋向移動の動詞（“来，去”）の3類に下位分類<sup>1)</sup>できる。位置移動の動詞“上”は名詞とともに連語「“上”＋名詞」を作り、名詞の特徴から、異領域のくみあわせ<sup>2)</sup>を作る。異領域のくみあわせのうち、連語内部において名詞が場所を表すと、空間領域のくみあわせ<sup>3)</sup>を作る。空間領域のくみあわせ「“上”＋空間詞」は、連語論的な意味と構造的なタイプの違いとにより空間領域内部の各むすびつき<sup>4)</sup>を作る。“上”を用いる空間領域内部の各むすびつきには、下記に挙げる「空間的な移動のむすびつき」（例1）・「空間的な着点のむすびつき」（例

2)・「空間的な進入のむすびつき」(例3)・「空間的な移りのむすびつき」(例4,5)・「空間的な出現のむすびつき」(例6)などがある。

位置移動の動詞“上”は空間領域内部のむすびつきの違いにより、基本義「下から上に移動する」から派生義が生じ、多義語となる。“上”とくみあわさる名詞も空間領域内部のむすびつきの違いにより、意味変化が生じる場合があり、場所を表す空間詞も基本空間詞と派生空間詞の二類に分かれる。訳文も各むすびつきのなかで、基本訳と派生訳との二類に分かれる<sup>5)</sup>。

(1) 上坡真累。(『荒屋』 p.529)

坂をのぼるのはとても疲れる。(同上)

(2) 猫上房了。(『荒屋』 p.529)

猫が屋根に上がった。(同上)

(3) 他上汽车了。(『荒屋』 p.529)

彼は自動車に乗った。(同上)

(4) 下批你再要不到，我就上医院作手术，这辈子不生了！(『人民』 89-1-102)

この次もらえなかったら、すぐ病院へ行って手術しますからね。一生、子供は生みません！(同上)

(5) 他们下午上我们学校参观语言实验室。(作例)

彼らは午後、私たちの学校へ視聴覚教室を見学にきます。

(6) 老张的事迹上了报了。(『八百詞』 p.302)

張さんの行った立派な行為が新聞に載った。(同上)

連語論的な意味による「“上” + 空間詞」は、上記に挙げる例文の中に用いられるほか、他の動詞とともに、下記の表に示すような4類の構造が作れる。

[表1] 「“上” + 空間詞」で作る構造

- i. “上” + 空間詞
- ii. 動詞 + “上” + 空間詞
- iii. “上” + 空間詞 + “来 / 去”
- iv. 動詞 + “上” + 空間詞 + “来 / 去”

本稿では上記に挙げる4類の構造のうち、位置移動の動詞“上”が「(有様移動の)・動詞 + 位置移動の動詞“上” + 名詞」構造を作り、名詞が空間を表す例をとりあげ、本構造における“上”と名詞との関係について分析する。本構造が連語論的な意味と構造的なタイプとにより、どのような空間領域内部のむすびつきを作り、異なる各むすびつきの中で、単語レベルの“上”と名詞とが、連語レベルでどのような意味変化を起こすかについてのメカニズムを検討する。

## 2. 「動詞＋位置移動の動詞“上”＋空間詞」で作る空間領域のくみあわせ

位置移動の動詞“上”は「動詞＋位置移動の動詞“上”＋名詞」の連語を作り、異領域のくみあわせを作る。連語内部において名詞が場所を表すと、空間領域のくみあわせを作る。空間領域のくみあわせには次のような例文が見られる。

(7) 阳光又爬上崖畔，瞎老汉和“花脑”坐在崖顶上。(《插队的故事》)

日差しが崖を這い上がり、崖の上には盲のじいさんと「花脳」が腰をおろしていた。

(『遙かなる大地』)

(8) 半天才走下一道山梁，半天才爬上一座山崮，四下望去，仍是不尽的山梁、山茆，深沟大壑，莽莽与天相连。(《插队的故事》)

尾根ひとつ下りるのにかなりの時間がかかり、丘陵を登るのにもまた時間がかかる。四方を見渡しても、どこまでも山稜、丘陵、峡谷が果てしなく広がり、天まで繋がっているかのようにだった。(『遙かなる大地』)

(9) 一口气跑上三楼。(『八百詞』 p.304)

一気に3階まで駆けあがる。(筆者訳)

(10) 有一天瞎老汉又走上那土崖。(《插队的故事》)

ある日じいさんはまた例の崖に登った。(『遙かなる大地』)

(11) 跨上马背飞奔而去。(『八百詞』 p.304)

馬の背にまたがると飛ぶように駆け去った。(同上)

(12) 早晨八点三十分，倪藻他们在B市的机场登上不列颠航空公司的飞机。(《活变动人形》)

朝8時半、一行はB市の空港で英国航空機に搭乗した。(『応報』)

(13) 一会儿，声音变成“空通通——空通通——”，火车开上一座桥。(《插队的故事》)

しばらくすると「ゴトンゴトン」という音に変わって汽車は鉄橋にさしかかった。(『遙かなる大地』)

(14) 社员们都住上了新房子。(『八百詞』 p.303)

人民社員たちはみな新しい家に住めるようになった。(同上)

(15) 直到去年调动工作，住室略有改善，住上了单元房。(『人民』 88-2-98)

去年転職して、ようやく住まいはいくらか良くなった。アパートに住めるようになったのである。(同上)

(16) 他寻思，给娃买个彩电什么的。怎奈那彩电由一千多元一下子猛涨到三千，像坐上直升飞机。(『人民』 90-1-98)

息子にカラーテレビやらなにやかや買ってやらねばと思案はするが、なにしろそういうものは、まるでヘリコプター式に千円代のものがあつというまに三千元代に急騰している。(『人民』 90-1-99)

(17) “罢，罢，我上火车站，我再找娘去，火车站那里若是没有我坐上火车往回走，到一站我

找一站，找不着娘我就不会来了！”（《活变动人形》）

「もういい、いいがね。また駅へ探しに行くわ。そこに居なけりゃ、も一度汽車に乗って引き返し、一駅ずつ下りて探す。見つけるまでは戻らんけに」（『応報』）

(18) 裙衫贴上了她的脊背。（『人民』89-12-101）

ワンピースが彼女の背中にはりつく。（同上）

(19) 通知贴上了墙。（作例）

通知が壁に貼られた。（筆者訳）

(20) 泪水突然涌上了他的眼睛，他甚至觉得一阵窒息，整个餐厅的幽暗的灯火摇摆旋转了起来。他回想起了儿时荡秋千。（《活变动人形》）

急に涙が溢れ出て、胸が詰まり、レストランのほの暗い照明が、子供の頃のブランコ遊びのように揺れて見える。（『応報』）

(21) 余占鳌看着我父亲的端正头颅，看着我奶奶的花容月貌，不知有多少往事涌上心头。（《红高粱》）

形よい父の頭と美しい祖母の顔を見ている余占鳌の心に、過去の出来事がつぎつぎに湧きあがった。（『赤い高粱』）

(22) 他们在院子里种上了樱花树。（作例）

彼らは庭に桜を植えた。（筆者訳）

(23) 中国登山队把五星红旗插上了珠穆朗玛峰顶峰。（『八百詞』 p.304）

中国の登山隊は五星紅旗をチョモランマ山の頂上に立てた。（同上）

(24) 把弹药送上了前线。（『八百詞』 p.304）

弾薬を前線まで届けた。（同上）

(25) 他们把行李搬上了汽车。（作例）

彼らは荷物を車に運んだ。（筆者訳）

(26) 他终于把球打上了观众席。（作例）

彼はついにホームランを打った。（筆者訳）

(27) 经过多年研制，终于把卫星发射上了天。（作例）

長年の開発により、とうとう人工衛星の打ち上げに成功した。（筆者訳）

(28) 我把她拖上船，自己不想再上去了，反正衣服湿了，跟在船后面游吧。（《人啊，人》）

おれは彼女を船に押し上げたあと、自分はもうあがる気になれなかった。どうせ濡れネズミだ、いっそ船について泳いでいこう。（『ああ、人間よ』）

(29) 同行的几个人连背带抱把我弄上卧铺车厢。（《插队的故事》）

同行の数人が背負ったり、腕を支えたり、抱きかかえたりして私を寝台に乗せてくれた。（『遙かなる大地』）

(30) 人们七手八脚把他抬上了救护车。（作例）

みんなはあたふたしながら彼を救急車に乗せた。(筆者訳)

上掲中の例文に見られるように、位置移動の動詞“上”は「動詞+位置移動の動詞“上”+名詞」の連語を作り、名詞が場所を表すと、空間領域のくみあわせを作る。この連語のなかで、動詞は運動の方式を表し、“上”は位置移動を表し、名詞は場所を表す。

位置移動の動詞“上”の基本義は「下から上に移動する」角度性の移動である。空間領域のくみあわせの中で、“上”がこの意味で使われている連語のくみあわせは、例(7)の“爬上崖畔”「崖を這い上がり」や例(8)の“爬上一座山岭”「丘陵を登る」などである。これらのくみあわせの中に用いられている“上”は、「下から上に移動する」角度性の移動を表しているので、“上”の基本義と言えるであろう。

“上”は、例(9)の“跑上三楼”「3階まで駆けあがる」や例(10)の“走上那土崖”「例の崖に登った」や例(11)の“跨上马背”「馬の背にまたがる」などのように、さらに「到着する」の意味でも使われている。“上”の客体となる「到着する場所」は高い場所なので、この用法の“上”も角度性移動であるが、角度性移動のうちの到着の局面しか表していないので、派生義と言えるであろう。また、例(12)の“登上不列颠航空公司的飞机”の“上”は角度性移動のうちの、ある枠内に対する進入の局面しか表していないので、やはり派生義と言えるであろう。例(13)の“开上一座桥”の“上”は角度性の上下の高低から平面性の前後への移行とみなせ、ある枠内に対する空間上の平面的な主体の進入を表している。この用法の“上”は派生義である角度性移動の「主体がある場所に進入する」から平面性移動の「主体がある場所に進入する」の意味で使われているので、当然これも派生義である。

例(14)の“住上了新房子”「新しい住宅に住めるようになった」と例(15)の“住上了单元房”「アパートに住めるようになった」の“上”は、主体が元の住居から今の住居に移ったことを意味している。引っ越した住宅は高いところにある場合もあるであろうし、平面的なところにある場合もあるであろう。このように「移る」の意味で使われる“上”は角度性移動から解放されているので、やはり派生義と言える。但し、主体はすでに現在の住宅に住んでいるので、“住上了新房子”は、連語としては移った後の「主体の移り」を表していると言える。

例(16)の“坐上直升飞机”「ヘリコプター式(ヘリコプターに乗る)」と例(17)の“坐上火车”「汽車に乗って」の“上”は、乗り物に乗り座席に着席することを意味している。このように「着席する」の意味で使われる“上”は、主体が乗り物内部の座席に到着することを表しているので、やはり派生義と言える。

例(18)の“贴上了她的脊背”「彼女の背中にはりつく」と例(19)の“贴上了墙”「壁に貼られた」の“上”は、主体がある場所に貼りつけられることを意味している。このように「はりつく」「貼りつけられる」の意味で使われる“上”は、主体がある場所に到着することを表しているので、やはり派生義と言える。

例(20)の“涌上了他的眼睛”「溢れ出て(彼の目にあふれる)」と例(21)の“涌上心头”「心

に湧きあがった」の“上”は、主体がある場所に出現することを意味している。この意味で使われる“上”は、移動義ではなく出現義なので、やはり派生義と言える。

例(23)から(30)まではいわゆる“把”字構文である。例(22)の位置移動の動詞“上”は「あるものをある場所にとりつける」の意味で使われている。「動詞+位置移動の動詞“上”+名詞」のくみあわせの中で、“上”が「とりつける」の意味で使われている連語のくみあわせは、例(23)の“把五星红旗插上了珠穆朗玛峰顶峰”「五星红旗をチョモランマ山の頂上に立てた」である。このくみあわせの中に用いる“上”には、主体が「到着する」意味を表す角度性や平面性の移動もなく、また、「移る」の意味を表す平面性移動もない。主体が客体をある場所に「とりつける」の意味を表している。「とりつける」は場所に対する主体による客体の進入を意味する。このむすびつきも場所に対する主体と客体の違いはあるものの、主体がある場所に「進入する」の意味から派生したのであろう。例(24)から(30)までの位置移動の動詞“上”は「あるものをある場所に移す」の意味で使われている。たとえば、例(24)の“把弹药送上了前线”「弾薬を前線まで届けた」や例(29)の“把我弄上卧铺车厢”「私を寝台に乗せてくれた」などである。このくみあわせの中に用いる“上”には、主体が「移動する、到着する」の意味を表す角度性や平面性の移動もない。また、角度から解放される「移る」の意味を表すA点からB点への移りもない。主体が客体をある場所に「移す」の意味を表している。「移す」は場所に対する主体による客体の移りを意味する。このむすびつきも場所に対する主体と客体の違いはあるものの、主体がある場所に「移る」から客体をある場所に「移す」の意味に派生したのであろう。

### 3. 意味変化のメカニズム

中国語の単語の意味変化について、日本語における奥田靖雄の連語論に関する理論<sup>6)</sup>と鈴木康之の主張する構造的なタイプの構築<sup>7)</sup>に倣い、上記に挙げる「動詞+“上”+空間詞」の中の“上”と空間詞とのくみあわせを取り上げ、連語論の立場から、そのメカニズムを言及する。上掲の連語「動詞+“上”+空間詞」は、次のような連語論的な意味のむすびつきと構造的なタイプとを作り、各むすびつきの中で、“上”と名詞に意味変化がおきる。なお、構造的なタイプの中の名詞は名詞連語も含む。

3.1. 空間的な移動のむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、ある場所での主体の移動を表すくみあわせを「空間的な移動のむすびつき」という。(例7, 8)

動詞+“上”

移動を意味する動詞連語

移動を意味する動詞連語：“爬上”(7, 8)

場所を意味する名詞：“崖畔”(7)、“山崩”(8)

移動のむすびつき：“爬上崖畔”「崖を這い上がり」(7)、“爬上山崩”「丘陵をのぼる」(8)

空間詞

場所を意味する名詞

位置移動の動詞“上”の基本義は「下から上に移動する」角度性移動である。上掲の“上”の日本語訳に見られる「あがる」「のぼる」は「下から上に移動する」角度性移動を表しているので、単語レベルでみれば基本義である。連語「動詞+“上”+空間詞」における動詞は運動の方式を表し、位置移動の動詞“上”の日本語訳「あがる」「のぼる」は、連語レベルで見る「移動のむすびつき」の中でも、「下から上に移動する」角度性移動を表しているので、「移動を示す基本動詞」と言える。なお、移動のむすびつきにおける動詞連語「動詞+“上”」は「動詞+“上”」が両方とも訳される“爬上崖畔”「崖を這い上がる」(7)と“上”だけが訳される“爬上山茆”「丘陵をのぼる」(8)の二類の日本語訳に大別できるのが特徴であろう。

“山茆”“崖畔”は単語レベルでも連語レベルでも場所を表すので、「場所を示す基本空間詞」と名付ける。これらはいずれも形状別に見ると角度性の空間詞である。

上掲の「動詞+“上”+空間詞」“爬上崖畔”「崖を這い上がる」(7)は、連語論的な意味を表す「空間的な移動のむすびつき」を作り、運動の方式を表す動詞も訳され、位置移動の動詞も訳され、空間詞も訳されている。本稿では中国語と日本語とが対応する訳を「空間的な移動のむすびつきを示す基本訳」と言う。この訳に対し、“爬上山茆”「丘陵をのぼる」(8)は、運動の方式を表す動詞が訳されていないので、中国語と日本語とが対応していない。本稿ではこのような訳を「空間的な移動のむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.2. 空間的な着点のむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、ある場所への主体の到着を表すくみあわせを「空間的な着点のむすびつき」という。(例9, 10, 11)

動詞+“上”

空間詞

到着を意味する動詞連語

場所を意味する名詞

到着を意味する動詞連語：“跑上”(9)、“走上”(10)、“跨上”(11)

場所を意味する名詞：“三楼”(9)、“那土崖”(10)、“马背”(11)

着点のむすびつき：“跑上三楼”「3階まで駆けあがる」(9)、“走上那土崖”「例の崖に登る」(10)、“跨上马背”「馬の背にまたがる」(11)

上掲の“上”の日本語訳に見られる「あがる」「のぼる」は「下から上に移動する」角度性移動を意味しているので、単語レベルでみれば基本義である。連語レベルで見る「空間的な着点のむすびつき」の中では「下から上に移動する」角度性移動を表しているのではなく、その中の一部である到着の局面だけを表しているので、「空間的な着点を示せる派生動詞」と言える。“跨”「またがる」とともに用いられている“上”も到着の局面だけを表しているが、訳されていないので不訳である。なお、動詞連語「動詞+“上”」は、「動詞+“上”」が複合動詞として両方とも訳される“跑上三楼”「3階まで駆け上がる」(9)と、動詞だけが訳される“跨上马背”「馬の背にまたがる」(11)と、“上”だけが訳される“走上那土崖”「例の崖に登る」(10)との三

類の日本語訳に大別できる。例(11)は「馬の背に乗る」とも訳せる。そう訳すと、“上”だけを訳す場合と同じ訳出法になる。動詞における中国語と日本語のこの違いは、中国語の動詞は運動の方式を表し、位置移動の動詞は移動・結果・状態を表すという区別があるのに対し、日本語の動詞の一部「駆ける」は運動の方式しか表せないが、「またがる」はそれ自体で運動の方式と移動の一部「到着」までを含むという特徴がある。「登る」は一般に歩いてしか登れないので、登る方式の「歩く」が省略されていると言えるであろう。

“三樓”(9)“土崖”(10)などは単語レベルでも連語レベルでも場所を表すので、「場所を示す基本空間詞」と言う。“馬背”(11)は普通名詞連語であり、場所は表さないが、選出関係<sup>8)</sup>を表す連語レベルでは場所を表す。このような空間詞を連語論では「場所を示せる派生空間詞」と言う。たとえば、“跨上马背”は連語論の表す連語論的な意味では「空間的な着点のむすびつき」を作り、“馬背”は主体の到着するところを表す空間詞連語である。“上”を用いる空間的な着点のむすびつきを作る客体は形状別に見るといずれも角度性の空間詞である。

上掲の「動詞+“上”+空間詞」に対応する日本語訳「3階まで駆け上がる」(9)は、中国語と日本語とが対応しているので、「空間的な着点のむすびつきを示す基本訳」である。この訳に対し、「例の崖に登る」(10)、「馬の背にまたがる」(11)などの日本語訳は、中国語と対応していないので、本稿では「空間的な着点のむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.3. 空間的な進入のむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、ある場所への主体の進入を表すくみあわせを「空間的な進入のむすびつき」という。(例12, 13)

動詞+“上”	空間詞
進入を意味する動詞連語	場所を意味する名詞
進入を意味する動詞連語：“登上”(12)、“开上”(13)	
場所を意味する名詞：“不列颠航空公司的飞机”(12)、“一座桥”(13)	
進入のむすびつき：“登上不列颠航空公司的飞机”「英国航空機に搭乗した」(12)、“开上一座桥”「鉄橋にさしかかった」(13)	

上掲の“上”の日本語訳「搭乗する」「さしかかる」は、「下から上に移動する」角度性移動を表していないので、単語レベルで見れば派生義である。連語「動詞+“上”+空間詞」における位置移動の動詞“上”の日本語訳「搭乗する」「さしかかる」も、連語レベルで見る「空間的な進入のむすびつき」の中では「下から上に移動する」角度性移動を表しているわけではなく、その中の一部である進入の局面しか表していないので、「進入を示せる派生動詞」と言える。なお、本むすびつきを作る動詞連語「動詞+“上”」は、“上”だけが訳される訳出“登上不列颠航空公司的飞机”「英国航空機に搭乗した」(12)、“开上一座桥”「鉄橋にさしかかった」(13)である。中国語と日本語のこの違いは、中国語の動詞は運動の方式を表し、位置移動の動詞は移



動・結果・状態を表すという区別があるのに対し、日本語の動詞「搭乘する」「さしかかる」はそれ自体で運動の方式と移動・結果・状態まで含むという特徴があるからであろう。そのため、中国語では3単語で表現しても、日本語では2単語で表現する場合が多い。

“飞机”(12)、“桥”(13)などは単語レベルでは「もの」だが、連語レベルでは「場所」を表すので、「場所を示せる派生空間詞」と言う。これらの空間詞は形状別に見ると角度性と線上性の空間詞である。このことから“上”を用いて空間的な進入のむすびつきを作る空間詞は角度から解放され、主体の移り動きも平面性に転換する場合があるといえるであろう。

上掲の「動詞+“上”+空間詞」に対応する日本語訳「英国航空機に搭乘した」(12)、「鉄橋にさしかかった」(13)などは中国語と対応していないので、本稿では「空間的な進入のむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.4. 社会的な移りのむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、主体の社会的な移りを表すくみあわせを「社会的な移りのむすびつき」という。(例14, 15)

動詞+“上”

空間詞

移りを意味する動詞連語

場所を意味する名詞

移りを意味する動詞連語：“住上”

場所を意味する名詞：“新房子”(14)、“单元房”(15)

社会的な移りのむすびつき：“住上了新房子”「新しい住宅に住めるようになった」(14)、  
“住上了单元房”「アパートに住めるようになった」

連語「動詞+“上”+空間詞」における「動詞+位置移動の動詞“上”」の日本語訳「住めるようになる」は、連語レベルでは「下から上に移動する」角度性移動を表しているのではなく角度から解放された移りを表している。動詞が状態を表し、位置移動の動詞“上”は主体の平面的な移動を表しているのではなく、客体を作る社会的な空間内への移りを表している。連語「動詞+“上”+空間詞」全体では主体の移りを表しているので、“上”は「社会的な移りを示せる派生動詞」と言えるであろう。

上掲の“新房子”の“房子”「家屋、家」は単語レベルでは普通名詞であり、場所は表さないが、連語レベルでは場所を表す。たとえば、“住上了新房子”は連語論の表す連語的な意味では「社会的な移りのむすびつき」を作り、“房子”は主体の移り先を表す空間詞である。このような空間詞を連語論では「場所を示せる派生空間詞」と言う。

上掲の「動詞+“上”+空間詞」に対応する日本語訳「新しい住宅に住めるようになった」(例14)「アパートに住めるようになった」(例15)は“上”が「下から上への移動」を表す角度性の移動ではなく、社会的な移りを表す「移る」の意味で訳されているので、これを本稿では「社会的な移りのむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.5. 立ち居のむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、ある場所での主体の立ち居を表すくみあわせを「立ち居のむすびつき」という。(例16, 17)

動詞 + “上”

空間詞

立ち居を意味する動詞連語

場所を意味する名詞

立ち居を意味する動詞連語：“坐上” (16) (17)

場所を意味する名詞：“直升飞机” (16)、“火车” (17)

立ち居のむすびつき：“坐上直升飞机”「ヘリコプター式 (ヘリコプターに乗る)」 (16)、  
“坐上火车”「汽車に乗って」 (17)

上掲の“上”は「下から上に移動する」角度性移動を表しているのではなく、「到着する」の意味で使われているので、単語レベルで見れば派生義である。連語レベル「動詞 + “上” + 空間詞」で見ると「立ち居のむすびつき」の中では「下から上に移動する」角度性移動を表しているわけではなく、その中の一部である到着の局面だけを表しているので、「立ち居を示せる派生動詞」と言える。なお、動詞連語「動詞 + “上”」は、動詞だけが訳される訳出“坐上直升飞机”「ヘリコプター式 (ヘリコプターに乗る)」 (16)、“坐上火车”「汽車に乗って」 (17) である。中国語と日本語のこの違いは、中国語の動詞は運動の方式を表し、位置移動の動詞は移動・結果・状態を表すという区別があるのに対し、日本語の動詞「乗る」はそれ自体で運動の方式と移動・結果・状態まで含むという特徴があるからと言えるであろう。

“飞机” (16) “火车” (17) などは、単語レベルでは「もの」であるが、連語レベルでは場所を表すので、「場所を示せる派生空間詞」と言う。これらの空間詞は形状別に見ると角度性の空間詞である。

上掲の「動詞 + “上” + 空間詞」に対応する日本語訳「ヘリコプター式 (ヘリコプターに乗る)」 (16)、「汽車に乗って」 (17) などは中国語と対応していないので、本稿では「立ち居のむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.6. 付着のむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、ある場所への主体の付着を表すくみあわせを「付着のむすびつき」という。(例18, 19)

動詞 + “上”

空間詞

付着を意味する動詞連語

場所を意味する名詞

付着を意味する動詞連語：“贴上” (18) (19)

場所を意味する名詞：“她的脊背” (18)、“墙” (19)

付着のむすびつき：“贴上了她的脊背”「彼女の背中にはりつく」 (18)、“贴上了墙”「壁に貼られた」 (19)

上掲の“上”は「下から上に移動する」角度性移動を表しているのではなく、「到着する」の意味を表しているので、単語レベルで見れば派生義である。連語「動詞+“上”+空間詞」における位置移動の動詞“上”も、連語レベルで見る「付着のむすびつき」の中では「下から上に移動する」角度性移動を表しているわけではなく、その中の一部である到着の局面だけを表しているので、「付着を示せる派生動詞」と言える。なお、本むすびつきを作る動詞連語「動詞+“上”」は、動詞だけが訳される訳出“貼上了她的脊背”「彼女の背中にはりつく」(18)、“贴上了墙”「壁に貼られた」(19)である。中国語と日本語のこの違いは、中国語の動詞は運動の方式を表し、位置移動の動詞は移動・結果・状態を表すという区別があるのに対し、日本語の動詞はそれ自体「はりつく」「貼られる」で運動の方式と移動・結果・状態まで含むという特徴があるからと言えるであろう。

“脊背”(18)と“墙”(19)は単語レベルでは「からだ」と「もの」であるが、連語レベルでは「場所」を表すので、「場所を示せる派生空間詞」と言う。これらの空間詞は形状別に見ると平面性の空間詞である。このことから、“上”を用いて付着のむすびつきを作る空間詞は、角度から解放されているといえるであろう。

上掲の「動詞+“上”+空間詞」に対応する日本語訳「彼女の背中にはりつく」(18)、「壁に貼られた」(19)などは中国語と対応していないので、本稿では「付着のむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.7. 空間的な出現のむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、ある場所での主体の出現を表すくみあわせを「空間的な出現のむすびつき」という。(例20, 21)

動詞+“上”

空間詞

出現を意味する動詞連語

場所を意味する名詞

出現を意味する動詞連語：“涌上”(20)(21)

場所を意味する名詞：“眼睛”(20)、“心头”(21)

出現のむすびつき：“涌上了他的眼睛”「溢れ出て」(20)、“涌上心头”「心に湧きあがった」(21)

上掲の“上”は「下から上に移動する」角度性移動を表しているのではなく、「出現する」の意味を表しているので、単語レベルで見れば派生義である。連語「動詞+“上”+空間詞」における位置移動の動詞“上”も、連語レベルで見る「空間的な出現のむすびつき」の中では「下から上に移動する」角度性移動を表しているわけではなく、その中の一部である出現の局面だけを表しているので、「空間的な出現を示せる派生動詞」と言える。なお、本むすびつきを作る動詞連語「動詞+“上”」は、複合動詞として両方とも訳される訳出“涌上了他的眼睛”「溢れ出て」(20)、“涌上心头”「心に湧きあがった」(21)である。

“眼睛” (20)、“心头” (21) などは単語レベルでは「からだ名詞」であるが、連語レベルでは「場所」を表すので、「場所を示せる派生空間詞」と言う。これらの空間詞は形状別に見ると枠内性の空間詞である。このことから“上”を用いて空間的な出現のむすびつきを作る空間詞は角度から解放されているといえるであろう。

上掲の「動詞+“上”+空間詞」に対応する日本語訳「溢れ出て」(20)は、中国語と対応していないので、本稿では「空間的な出現のむすびつきを示せる応用訳」と言う。「心に湧きあがった」(21)は中国語と対応しているので、本稿では「空間的な出現のむすびつきを示す基本訳」と言う。

3.8. とりつけのむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、主体が客体をある場所にとりつけることを「とりつけのむすびつき」という。この構造は二類に分かれる。(例22, 23)

i.	“在” + 空間詞	動詞 + “上”	普通名詞
	格つき場所名詞	とりつけを意味する動詞連語	もの名詞
ii.	“把” + 普通名詞	動詞 + “上”	空間詞
	ヲ格のもの名詞	とりつけを意味する動詞連語	場所を意味する名詞

格つき場所名詞／場所を意味する名詞：“在院子里” (22)、“珠穆郎玛峰顶峰” (23)

とりつけを意味する動詞連語：“种上” (22)、“插上” (23)

もの名詞／ヲ格のもの名詞：“樱花树” (22)、“把五星红旗” (23)

とりつけのむすびつき：“在院子里种上了樱花树”「庭に桜を植えた」(22)、“把五星红旗插上了珠穆郎玛峰顶峰”「五星红旗をチョモランマの山頂に立てた」(23)

例 (22) 「“在” + 空間詞」“在院子里”の空間詞連語“院子里”、および例 (23) の空間詞連語“珠穆郎玛峰顶峰”は単語レベルでも連語レベルでも場所を表す。このような場所を表す空間詞を連語論では「場所を示す基本空間詞」と言う。

「動詞+位置移動の動詞“上”」の動詞は運動の方式を表し、“上”は空間(地面)内への進入の局面を表すので、“上”は「とりつけを示せる派生動詞」と言える。本むすびつきを作る動詞連語「動詞+“上”」は、動詞だけが訳される訳出“在院子里种上了樱花树”「庭に桜を植えた」(22)、“把五星红旗插上了珠穆郎玛峰顶峰”「五星红旗をチョモランマの山頂に立てた」(23)である。中国語と日本語のこの違いは「付着のむすびつき」などと同様にやはり動詞で表現される内容の違いといえるであろう。

例 (22) のもの名詞“樱花树”、および例 (23) のもの名詞“五星红旗”は単語レベルでも連語レベルでももの名詞である。このようなものを表す普通名詞を連語論では「ものを示す基本普通名詞」と言う。

上掲の構造的なタイプに対応する日本語訳「庭に桜を植えた」(22)、「チョモランマの山頂に

立てた」は中国語と対応していないので、本稿では「とりつけのむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.9. 〈もの〉のうつしかえのむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、主体が客体（もの）をある場所にうつしかえることを「〈もの〉のうつしかえのむすびつき」という。（例24～27）

“把” + 普通名詞

動詞 + “上”

空間詞

ヲ格のもの名詞      うつしかえを意味する動詞連語      場所を意味する名詞

ヲ格のもの名詞：“把弹药”（24）、“把行李”（25）、“把球”（26）、“把卫星”（27）

うつしかえを意味する動詞連語：“送上”（24）、“搬上”（25）、“打上”（26）“发射上”（27）

場所を意味する名詞：前线（24）、汽车（25）、“观众席”（26）、“天”（27）

〈もの〉のうつしかえのむすびつき：“把弹药送上了前线”「弾薬を前線まで届けた」(24)、  
“把行李搬上了汽车”「荷物を車に運んだ」(25)、  
“把球打上了观众席”「ホームランを打った」(26)、  
“把卫星发射上了天”「人工衛星の打ち上げに成功した」(27)

連語「“把” + もの名詞 + 動詞 + “上” + 空間詞」における「“把” + もの名詞」のもの名詞には、もの名詞“弹药，行李，球，卫星”が使われている。これらは単語レベルでも連語レベルでもものを表す普通名詞なので、「ものを示す基本普通名詞」と言う。

「動詞 + 位置移動の動詞“上”」の動詞は運動の方式を表し、“上”は空間的な移りの局面を表しているので、「〈もの〉のうつしかえを示せる派生動詞」と言えるであろう。本むすびつきを作る動詞連語「動詞 + “上”」は、動詞だけが訳される訳出“把弹药送上了前线”「弾薬を前線まで届けた」(24)、“把行李搬上了汽车”「荷物を車に運んだ」(25)と意識“把球打上了观众席”「ホームランを打った（ボールを観客席に運んだ）」(26)、“把卫星发射上了天”「人工衛星の打ち上げに成功した（人工衛星を空に打ち上げた）」(27)である。例(24)(25)は主体と客体がうつしかえさきまで行くが、例(26)(27)は客体のみがうつしかえさきまで行くという違いがある。

上掲の“前线，观众席，天”は単語レベルでも場所名詞であり、連語レベルでも場所名詞なので、「場所を示す基本空間詞」である。“汽车”は、単語レベルではもの名詞であり、場所を表さないが、連語レベルでは場所を表す。たとえば、“把行李搬上了汽车”は連語論の表す連語的な意味では「〈もの〉のうつしかえのむすびつき」を作り、“汽车”は主体が客体をうつしかえる場所である。このような場所を「場所を示せる派生空間詞」と言う。

上掲の「“把” + もの名詞 + 動詞 + “上” + 空間詞」に対応する日本語訳「弾薬を前線まで届けた」(24)、「荷物を車に運んだ」(25)、「ホームランを打った（ボールを観客席に運んだ）」

(26)、「人工衛星の打ち上げに成功した(人工衛星を空に打ち上げた)」は中国語と対応していないので、本稿では「〈ひと〉のうつしかえのむすびつきを示せる応用訳」と言う。

3.10. 〈ひと〉のうつしかえのむすびつき：空間領域のくみあわせの中で、主体が客体(ひと)をある場所にうつしかえることを「〈ひと〉のうつしかえのむすびつき」という。(例28, 29)

“把” + ひと名詞

動詞 + “上”

空間詞

ヲ格のひと名詞

うつしかえを意味する動詞連語

場所を意味する名詞

ヲ格のひと名詞：“把她”(28)、“把我”(29)、“把他”(30)

うつしかえを意味する動詞連語：“拖上”(28)、“弄上”(29)、“抬上”(30)

場所を意味する名詞：“船”(28)、卧铺车厢(29)、救护车(30)

〈ひと〉のうつしかえのむすびつき：“把她拖上船”「彼女を船に押し上げた」(28)、“把我弄上卧铺车厢”「私を寝台に乗せてくれた」(29)、“把他抬上了救护车”「彼を救急車に乗せた」(30)

連語「“把” + ひと名詞 + 動詞 + “上” + 空間詞」における「“把” + ひと名詞」のひと名詞には、人称代詞“她，我，他”が使われている。これらは単語レベルでも連語レベルでもひとを表している。

「動詞 + 位置移動の動詞“上”」の動詞は運動の方式を表し、“上”は空間的な移りの局面を表しているので、「〈ひと〉のうつしかえを示せる派生動詞」と言えるであろう。なお、本むすびつきを作る動詞連語「動詞 + “上”」は、複合動詞として両方とも訳される訳出“把她拖上船”「彼女を船に押し上げた」(28)と動詞だけが訳される訳出“把我弄上卧铺车厢”「私を寝台に乗せてくれた」(29)、“把他抬上了救护车”「彼を救急車に乗せた」(30)である。これらの訳出も「付着のむすびつき」などに見られる中国語と日本語の動詞の違いによるのであろう。

上掲の“船，卧铺车厢，救护车”は単語レベルではもの名詞だが、連語レベルでは場所名詞なので、「場所を示せる派生空間詞」と言う。“卧铺车厢”は、単語レベルではもの名詞であり、場所を表さないが、連語レベルでは場所を表す。たとえば、“把我弄上卧铺车厢”は連語論の表す連語的な意味では「うつしかえのむすびつき」を作り、“卧铺车厢”は主体が客体をうつしかえる場所である。このような場所を表す空間詞を連語論では「場所を示せる派生空間詞」と言う。

上掲の例(28)“把她拖上船”「彼女を船に押し上げた」、例(29)“把我弄上卧铺车厢”「私を寝台に乗せてくれた」、例(30)“把他抬上了救护车”「彼を救急車に乗せた」は“上”が「下から上への移動」を表す角度性の移動ではなく、「うつしかえる」の意味で使われている。この用法を本稿では「〈ひと〉のうつしかえのむすびつきを示せる応用訳」と言う。

#### 4. おわりに

単語の意味変化は多義語の中に現れる。多義語は奥田靖雄が連語論的なむすびつきの違いによって生じると指摘するように、連語論的な各むすびつきの中に生じる。それを分かりやすく証明したのが、上記に示す鈴木康之の主張する「構造的なタイプ」である。本稿は中国語で二人の説の正当性を明らかにしたものである。

中国語では「動詞 + “上” + 空間詞」で作るむすびつきは連語論的な意味と構造的なタイプによって、以下の10類に大別できるであろう。連語論的な意味のむすびつきの違いにより位置移動の動詞“上”は異なる意味を表す。

1. 「空間的な移動のむすびつき」の中では基本義である「下から上への移動義」を表す。
2. 「空間的な着点のむすびつき」の中では派生義である「到着義」を表す。
3. 「空間的な進入のむすびつき」の中では派生義である「進入義」を表す。
4. 「社会的な移りのむすびつき」の中では派生義である「移り義」を表す。
5. 「立ち居のむすびつき」の中では派生義である「到着義」を表す。
6. 「付着のむすびつき」の中では派生義である「到着義」を表す。
7. 「出現のむすびつき」の中では派生義である「出現義」を表す。
8. 「とりつけのむすびつき」の中では派生義である「進入義」を表す
9. 「〈もの〉のうつしかえのむすびつき」の中では派生義である「移り義」を表す。
10. 「〈ひと〉のうつしかえのむすびつき」の中では派生義である「移り義」を表す。

「動詞 + 位置移動の動詞“上” + 客体」の中で、動詞は運動の方式を表し、“上”は各むすびつきの中で基本義「移動義」と派生義「到着義、出現義、進入義、移り義」とを表す。これらの基本義と4派生義とは「位置移動の動詞“上” + 客体」(1～6)の中にすでにある用法である。このことから、両構造は深い関係にあると言えるであろう。また、むすびつきの中で客体も角度性の名詞のほか、線条性の名詞や枠内性の名詞などが加わり、主体の移り動きも角度性の移動だけでなく、平面性の移りなどにも転換すると言えるであろう。

「動詞 + 位置移動の動詞“上”」の客体は単語レベルでは場所名詞ともの名詞である。もの名詞であっても連語における上掲の各むすびつきのなかでは場所を表している。単語レベルでも場所を表し、連語レベルでも場所を表す名詞であれば基本空間詞であり、単語レベルでは場所を表さず、連語レベルで空間を表す名詞であれば派生空間詞である。

「動詞 + 位置移動の動詞“上” + 名詞」で作る連語も各むすびつきを表す基本的な意味であれば、「各むすびつきを示す基本訳」であり、派生的な意味であれば「各むすびつきを示せる応用訳」である。

以上の「動詞 + 位置移動の動詞“上”」とその客体にみられる基本義と派生義との関係、および連語に見られる基本訳と応用訳との関係から、「動詞 + “上”」がどのような形状の空間詞とくみあわさるかによって、いろいろな連語論的な意味を表す「むすびつき」が作れ、構造的なタイ

プで示すむすびつきの違いによって派生義が生じ、単語に意味変化が起こるというメカニズムが存在すると言えるであろう。

奥田靖雄はむすびつきの違いにより日本語の動詞に意味変化が生じることを認めたものの、名詞に意味変化が生じることまで指摘するにいたらなかった。本稿では日中対照研究をすることにより、中国語の動詞にも意味変化が起こり、名詞にも意味変化が生じることを指摘し、これらを基本義と派生義とに分け、各むすびつきにも各むすびつきにおける基本訳と応用訳とがあることを指摘している。日本語研究者である奥田の理論と鈴木康之の主張する構造的なタイプの構築に倣いながら、日中対照研究を展開する中で、奥田の日本語面における不足を若干補え、中国語の面で両氏の説の正当性を証明できたであろう。

- 
- 1) 高橋弥守彦 (2001) に移動動詞を3類 (1. 有様移動の動詞 2. 位置移動の動詞 3. 趨向移動の動詞) に下位分類する説 (p.79) あり。
  - 2) 「“上” + 名詞」で作る異領域のくみあわせには次のような文がある。
    - (1) 領子上了半天才上上。(「時間領域のくみあわせ」『荒屋』 p.531)  
襟をしばらくかかってやっとりつけた。(同上)
    - (2) 一口气上了二十级台阶。(「空間領域のくみあわせ」『白水社中国語辞典』 p.1237)  
一気に20段の階段を上った。(同上)
    - (3) 我正上着螺丝呢。(「もの領域のくみあわせ」『八百詞』 p.302)  
私は今ネジを付けているところだ。(同上)
    - (4) 车到下一站又上了几个人。(「ひと領域のくみあわせ」『八百詞』 p.302)  
車が次の停留所に着くと、また何人か乗ってきた。(同上)
    - (5) 你上完课就回家吗? (「こと領域のくみあわせ」『白水社中国語辞典』 p.1238)  
授業が終わったらすぐ帰りますか。(同上)
  - 3) 高橋弥守彦 (2006 a) に「“上” + 空間名詞」に関する論文あり。
  - 4) 高橋弥守彦 (2006 a) では3類のむすびつき (i. 移動のむすびつき ii. 到着のむすびつき iii. 空間的な移りのむすびつき) に分類している。その後の研究により5類に分ける。
  - 5) 高橋弥守彦 (2007) に多義語 (基本動詞と派生動詞)・基本空間詞と派生空間詞・基本訳と派生訳に関する論述 (p.114~119) あり。
  - 6) 鈴木康之 (2004) は「連語論は、奥田靖雄が開拓した言語学研究の一分野である。わたくしは、大学生時代から奥田に指導を受けながら、連語論研究にたずさわってきた。……奥田靖雄を指導者として、わたくしたちが格助詞の用例を採集しはじめたのは、1954年ごろからではないかと思われる」(p.152) と述べている。



- 7) 鈴木康之 (2004) は「ついでながら、その後 (1970年ごろから数年間) 鈴木重行などとともに、常陸太子 (茨城県)・宇部 (山口県)・雲仙 (長崎県) などで、そこで開催される「文法講座」として奥田靖雄の連語論研究を講義したものである」(p.154~155) と述べている。鈴木康之によれば、この頃から「構造的なタイプ」を連語論普及のために使っていたと言う。連語論で用いる「移動のむすびつき」「到着のむすびつき」などの構造的なタイプは鈴木康之の指導のもとに高橋弥守彦 (2003) が整理している。
- 8) 高橋弥守彦 (2006 b) では連語を 8 類に分け、その中のひとつに選出連語 (“学习汉语, 锻炼身体”) がある。高橋は「選出連語は連語の内部構造が『選出する単語 + 選出される単語』の関係になっている連語です」(p.266) と述べている。

### 言語資料と略称

『人民中国』1988~1997『人民』

『中国語講読シリーズ 1~6』1991『講読』

『中国語常用動詞辞典』1995『荒屋』

『中国語用例辞典』1992『八百词』

『中日対訳コーパス (第一版)』北京日本研究センター 2003『コーパス』

### 参考文献

1. 荒川清秀 (2004) 「空間名詞と空間化」『国文学 解釈と鑑賞』第69巻7号 至文堂
2. 荒川清秀 (2005) 「中国語学から見た連語論(2)」『国文学 解釈と鑑賞』第70巻7号 至文堂
3. 荒屋勸 (1995) 『中国語常用動詞例解辞典』日外アソシエーツ
4. 大島吉郎 (2005) 「“V+上”の意味解釈-心理的側面を中心に-」『語学教育研究論叢』語学教育研究所創立20周年記念号第22号 大東文化大学語学教育研究所
5. 奥田靖雄 (1976) 「言語の単位としての単語」『教育国語』45号 むぎ書房
6. 呉大綱 (2005) 「中国語における連語論研究の展望」『国文学 解釈と鑑賞』第70巻7号 至文堂
7. 鈴木重行 鈴木康之責任編集 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』言語学研究会編 むぎ書房
8. 鈴木康之 (2004) 「奥田靖雄の連語論」『国文学 解釈と鑑賞』第69巻1号 至文堂
9. 高橋弥守彦 (2003) 「連語の構造的なタイプの一覧、動作の具体化の場合」『研究会報告・第24号』日本語文法研究会
10. 高橋弥守彦 (2003) 「位置移動動詞“上/下”と空間語の関係について」『外国語学会誌』No.32 大東文化大学外国語学会誌

11. 高橋弥守彦 (2005) 「中国語学からみた連語論(1)」『国文学 解釈と鑑賞』第70巻7号 至文堂
12. 高橋弥守彦 (2006 a) 「連語論から見る“上” + 空間名詞について」清華大学日本語文化国際フォーラム口頭発表資料 清華大学
13. 高橋弥守彦 (2006 b) 『实用詳解中国語文法』郁文堂
14. 田中茂範・松本曜著 (1997) 『空間と移動の表現』 研究社
15. 方美麗 (2002) 「連語論<移動動詞と空間名詞との関係> - 中国語の視点から - 」『日本語科学』11 国立国語研究所
16. 方美麗 (2004) 「中国語と日本語の空間表現」『国文学 解釈と鑑賞』第69巻7号 至文堂
17. 侯精一 張光正等 編著 田中信一 西楨光正等 译著『中国語補語例解』(日文版) 商務印書館
18. 朴鐘漢著 遠藤雅裕訳 (2000) 「認知文法による現代中国語多義語の研究」『中央大学論集』第21号 中央大学
19. 朴貞姫・崔健 (2004) 「空間経路表現の日中対照」『日中言語対照研究論集』第6号 日中対照言語学会 白帝社
20. 丸尾誠 (2005) 『現代中国語の空間移動表現に関する研究』 白帝社
21. 森田良行 (2004) 「移動動詞と空間表現」『国文学 解釈と鑑賞』第69巻7号 至文堂
22. 刘月华主编 (1998) 《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社
23. 吕叔湘主編 牛島徳次監訳・菱沼透訳 (1992) 『中国語用例辞典』東方書店